

活動プログラム

団体名 (ガールスカウト岡山県連盟)

1. 事業内容

<input type="checkbox"/>	子どもたちの生活習慣や学習習慣の確立に関する活動
<input type="checkbox"/>	不登校（傾向）児童生徒対象の体験活動
<input checked="" type="checkbox"/>	自然体験、生活体験、社会体験に関する活動
<input type="checkbox"/>	家庭教育支援に関する活動
<input type="checkbox"/>	地域課題の解決に関する活動
<input type="checkbox"/>	地域人材の育成に関する活動

※複数選択可

2. 活動プログラム名

「	ミッション発動!仲間と協力してクリアしよう!	」
---	------------------------	---

3. 目 標 (ねらい)

<p>※プログラムを通して、参加者に身に付けさせたい力、はぐくみたい姿等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初対面の人とコミュニケーションを積極時に取り、協力する姿勢をはぐくむ。 ・救急法や測定法等、いざという時に活かせる技術を習得する。
--

4. 活動内容 ※対象者の活動及び活動実施に向けた研修会等を記載してください。

回	★目標 ・活動内容・対象・参加者人数・スタッフ人数・会場等	◆目指す参加者の姿 (評価方法)
第1回	<p>★野外活動を通して、グループの仲間と協力できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外炊事、野外やいざという時に役立つ技術の習得 ・国立吉備青少年自然の家・参加者 15 名 	<p>◆初対面の人とコミュニケーションを積極時に取り、協力している。 (観察・事後アンケート)</p> <p>◆救急法や測定法等、いざという時に活かせる技術を習得している。(事後アンケート)</p>
第2回	<p>★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 	◆
第3回	<p>★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 	◆

5. 展 開

回 時間	内 容	準備物	留意点	◆目指す参加者の姿 (評価方法)
【第1回】 30分	<p>オリエンテーション</p> <p>【導 入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○趣旨説明 ○事前アンケート記入 ○グループ作り ○行動のルール作り <p>※人の意見を否定しないことを全グループ共通のルールとした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しおり ・名札 ・事前アンケート用紙 	<p>行動のルール確認</p> <p>消極的な子への声掛け</p>	<p>グループミーティングが積極的にできる</p> <p>(事前・事後アンケート)</p>
210分	<p>【活 動】</p> <p>○野外料理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで野外料理をする。 ・薪の割り方を覚える ・薪の組み方を覚える ・火の起こし方を覚える ・役割分担をする ・炊具返却の点検はグループについてのスタッフにもらったが不十分だった。 <p>※借りた時よりきれいにして返すことの大切さまで至らなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・炊工具、薪 ・食材 ・食器 ・救急セット 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガ、火傷への注意喚起及び見回り ・手持無沙汰にしている子へ声かけするようグループの子への声掛け <p>※指示待ちの子に直接スタッフが声掛けをするのではなく、グループで率先して動いている子に指示を出してあげるような声掛け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで役割を分担し、時間内に調理から片付けができるように協力する。 (参加者の発言や取り組む姿勢を観察) ・タイムキーパーの重要性を知る (時折、スタッフからタイムキーパーの子どもへの働きかけを行ったが、タイムキーパーが自分の役割を理解し、果たしているかを観察) ・達成感と成功体験を増やし、非認知能力を高める (スタッフは必要な場面でのみ指導し、参加者が自分で行うよう、余計な手出しをしない)

<p>75分</p>	<p>○技術習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロープワーク ・測定法 ・救急法 <p>(ミッションカードを探し、それに書かれている技術を習得する。グループ内で知っている人がいれば教えることでリーダーシップを発揮できる。知らない場合、ヒント役スタッフを探して聞くが、どの人がどのヒントを持っているのか事前に知らせないため、コミュニケーションスキルが育つ。確認役は、技術ができたかどうかを確認し、同時に、どんな時に役立つかを説明する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミッションカード ・ロープ ・メジャー ・タオル ・ガーゼ ・ヒントゼッケン ・確認ゼッケン ・新聞紙 ・シール ・各計画書 ・グループ表 ・紐類 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理 ・グループ内のフォロー (進まないグループがないかの確認する。) ・積極的に動けるよう声掛け (必要以上に声は掛けない。困っているようなグループに対してのみ声掛けを行う。観察してほぼ必要はなかった。) ・成功した時のほめ方 (回数等、過剰に褒めすぎない。褒めると同時に具体的にどこがよかったのかなるべくフィードバックするようにした。) ・成功体験を増やす (1回でできなくても何度もチャレンジすることで、成功できた喜びを体験してもらう。できるだけグループの中で解決させ、グループ内で教え合 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジ精神を養う (観察) ・コミュニケーション能力を高める (プログラム担当スタッフからは声掛けをしないで待つ。) ・日常でも、非常時でも役立つ技術を身に着け、人のために何かできる自信をつける (確認係が具体的に説明し、参加者はそれをしおりに記入。普段の生活でも役立つことを知ってもらう。また、他の人に技術を教えられるように促す) <p>※全体的には、事前・事後アンケートを比べ、自由記述欄も参考にしておいて評価する。</p>
------------	---	---	--	---

			うことにより、自信に繋がられるようにする。)	
15分	<p>【振り返り】</p> <p>○事後アンケート記入</p> <p>○スタッフの評価 (閉会式の中で、講評として参加者の頑張った点・よかった点を話す。)</p>	事後アンケート用紙	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で記入してもらうようにする。なかなか記入できない子には、観点を示唆する等の支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の努力を客観視し、頑張ったところやできたところを特に見つけて自信をつけるとともに、自己肯定感を高める。 (事前・事後アンケート)

活動の様子



